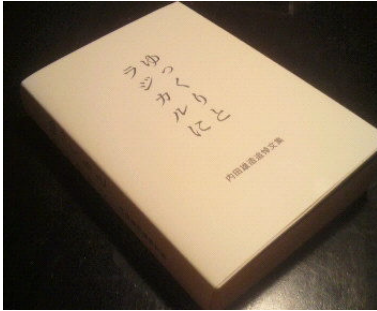


内田雄造追悼文集『ゆっくりとラジカルに』に寄せて

嶺井 正也



自治労の自治研集会の助言者として長らくかかわっていた内田雄造さん（東洋大学教授）が急逝されたのは 2011 年 1 月 26 日のこと。急性心筋梗塞（虚血性心不全）が原因で享年 68 歳だった。それは本当に突然のことであった。ここで紹介する追悼文集に掲載された、パートナーの内田良子さん（子ども相談室「モモの部屋」主宰）の「喪主あいさつ」（同書 472 頁）から、その時の様子を知ることができる。

亡くなった夜は、家族揃って夕食のテーブルを囲み、娘の手づくりの洋食をワイン片手においしいおいしいと言って舌づつみをうち、陽気に昔話に花を咲かせていました。くつろいで本当に楽しそうでした。「明日は仕事で早いから一足先におやすみ」と笑顔で寝室へ引きあげていきました。その時の笑顔のまま、今、雄造は柩の中で眠っています。

しかし現実には真夜中に、突然大きないきを吹き始め、あっという間もなく、意識はすでに失われていました。救急車で近くの大学病院の救命救急センターに運ばれた時には、心肺停止の状態に近く、なす術もありませんでした。

68 歳という若さで突然この世を去った内田さんの通夜、告別式には全国から約 1400 人も参列したとのこと。それだけさまざまな人々との交流があり、親しみを持たれた内田さんの「生涯を文書の形で、より詳しく記憶に留めたい」との思いで企画された本追悼集は「内田雄造先生生涯追悼文集刊行委員会一同・世話人会一同」の手で、2012 年 2 月に公開されたものである。

筆者も一時期、自治研の助言者をしていた時がある。「助言の仕方が悪い」といった趣旨の指摘をされて、助言者を降りるという体たらくの筆者とは違い、内田さんは長年その役を引き受けていらっしやった。この追悼論文集を手にした時、その内田さんと、一度だけ、親しく話をさせていただいたことが記憶によみがえってきた。

山形での自治研の朝、朝食を同じテーブルでとった時、話を伺った。内容は、若い頃に

山形市調査をされた、ということだった。話ぶりはとてもやわらかで、論理的であった、という印象が強かった。その時の印象からは、あの東大安田講堂で逮捕された経験があったとはとても想像できなかつた。本追悼論文集で、はじめて、その時の様子を知ることができた。内田良子さんとの出会いもその頃であった、ということも。

元・東大闘争全学共闘会議代表の山本義隆さんが読んだ「弔辞」も掲載されている（460～463頁）

君とは1968年の東大闘争で知り合った。そして、東大闘争から東大裁判闘争と活動を共にした。温厚な人柄に加えて、いつも冷静で感情的にならず、それでいて、よく考え抜いた意見を語っていたことが強く印象に残っている。あのとき、君は、すでに工学系大学院建築研究科の博士課程2年であった。当時では、少なくとも理科系の大学院で博士課程と言えば、すでに一人前の研究者であった。そして、あの闘争は、そういった若手の研究者によって担われていたのであった。実際、東大闘争では、単に処分や機動隊導入をめぐる大学当局の学生運動弾圧の姿勢に批判が集まっただけではない。医学部闘争が、卒業後の研修を巡る闘争であったのと同時に、厚生省と東大医学部によって方向づけられた日本における医療と医学のあり方そのものを問うたように、多くの学問分野で権威を有し、権力を行使していた東京大学で行われていた研究それ自体を問題にしていたのだった。

君は1968年1月19日に安田講堂で逮捕され、起訴されている。昨日、君の訃報に接し、東大裁判闘争の資料をひっぱりだして、公判での君の被告人質問を読み直してみた。（後略）



本文集によれば、内田さんの68年の生涯は第1期（1942～1969年）「これが私の原点だから」、第2期（1970～1979年）「抵抗の都市計画運動」、第3期（1980～1989年）「そして、私自身も変えていきたい」、第4期（1990～1999年）「まちづくりは弱者のもの」、第5期（2000～2011年）「きみならできるよ」に区分されている。

「計画」を考える公教育計画学会としても都市計画、まちづくりを専攻してきた内田さんは非常に興味深く、学ぶべき生き方と問題提起をされてきたようである。本文集に収録されている「まちづくりの新しい展開と課題—基礎自治体における、住民参画の方法を求めて」はぜひ紹介しなければいけないものであるが、それは次の機会に委ねたい。

内田さんとの筆者との接点は、間接的ではあるが、他に二つあった。一つは、筆者は会

費会員だけのかかわりである東日本部落解放研究所の設立にかかわった内田さんは 1996 年から 2010 年までは理事長としても携わっていらした。残念ながら、ここでお会いすることはなかった。

もう一つは「たまごの会」である。筆者の住んでいる東京都江戸川区にかつて住んでいた日教組の書記の人のすすめで、筆者は「たまごの会」の会員になったことがある。期間は短かったが・・・内田さんはこの「たまごの会」農場建設に参加され、世話人として運営にかかわっていたということは本文集で初めて知った。

筆者と違い、内田さんは自ら取り組んだことには決して手を引くことなく、一貫してかかわってこられた。部落解放運動、「たまごの会」、自治研活動などなど。これらの活動は既定の社会を問いなおすものである。本追悼文集が「ゆうくりとラジカルに」と名付けられたゆえんがよく分かる内田さんの生き方を、ぜひ本学会の会員にも知っていただきたい。

お求めの時の連絡先です。

〒168-0063 東京都杉並区和泉3-34-23 「モモの家」内田様方  
内田雄造 追悼文集世話人会

電話 工藤秀美 (090-2207-9066) 内田良子 (03-5300-0521)

価格：3000 円 (送料 500 円)

ゆうちょ銀行 018 店 普通預金 口座番号 7854741 クドウヒデミ